

第101期 報告書

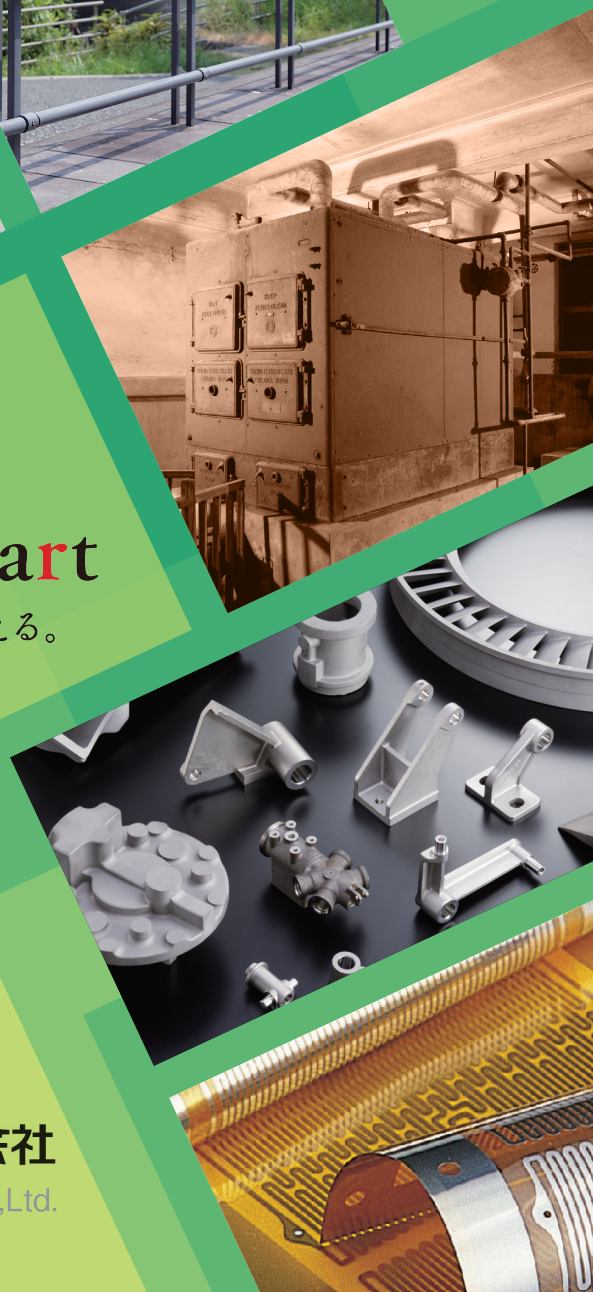
2022年4月1日 ▶ 2023年3月31日

証券コード：5953



Heat in Heart

情熱で拓く。誠実で応える。



 昭和鉄工株式会社
Showa Manufacturing Co., Ltd.



株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社グループは2023年3月31日をもって、第101期を終了いたしましたので、ここに事業の概況並びに決算の結果につきましてご報告申し上げます。

2023年6月

代表取締役社長 日野 宏昭

新中期経営計画「人財戦略・一翼を担おう！」のもと、直面

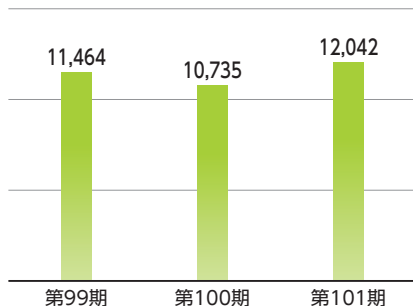
Q 第101期の総括をお願いします。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う規制が徐々に緩和され、社会経済活動の正常化に向けた動きが進みつつある一方で、長引く原材料価格の高騰や急激な為替変動等の影響により、依然として先行き不透明な状況で推移しました。

このような情勢の中で当社グループは、創業140周年を迎える2023年に向けた中期経営計画「全社横断の改革を実行し“140”へ向かおう！」の最終年度として、営業・製造・サービス活動のさらなる生産性改善による収益基盤の確立と構造改革を進め、重点課題である

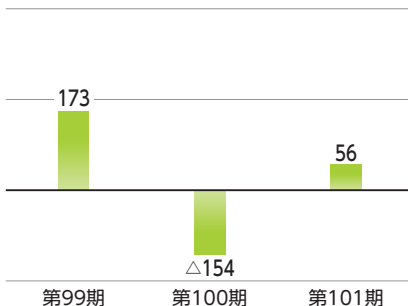
売上高

(単位：百万円)

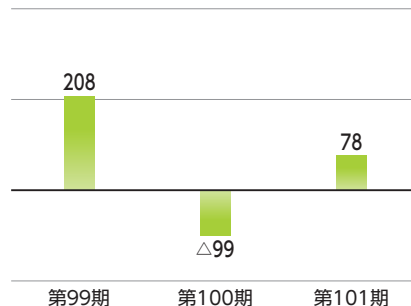


経常損益

(単位：百万円)



親会社株主に帰属する当期純損益 (単位：百万円)



事業戦略を一貫させた強い昭和鉄工で持続的社會への する社會や環境の様々な課題に取り組んでまいります。

「全体最適化と人材育成を加速させる体制づくり」、
「実践的な生産性改革の推進」及び「全社一丸での事業
収益の拡大」に取り組んでまいりました。

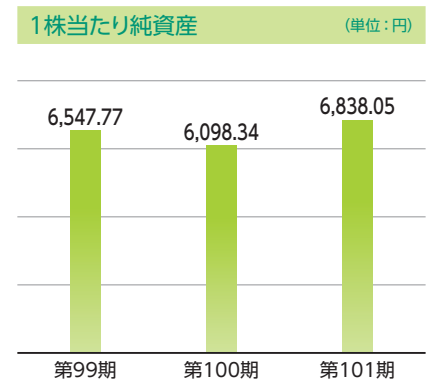
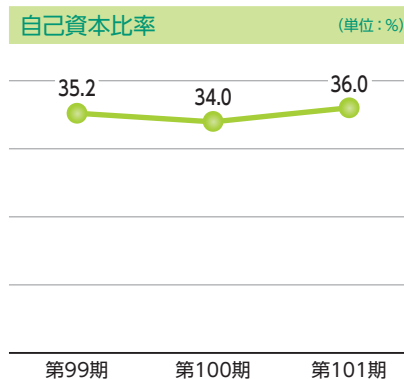
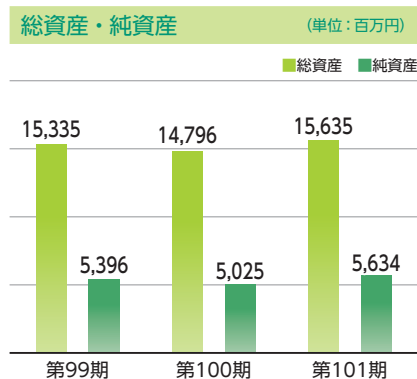
Q 第101期の業績についてお聞かせください。

当連結会計年度の当社グループの売上高は120億
4千2百万円(前連結会計年度比12.2%増)、受注高に
つきましては131億3千8百万円(同比10.5%増)となり
ました。

損益面では、設備投資の需要増に伴う受注環境の
好転により売上高は増加しましたが、原材料・資源価格の

上昇や売価への反映遅れ等が影響し、経常利益は5千
6百万円(前連結会計年度は経常損失1億5千4百万円)
となりました。

また、特別利益に投資有価証券売却益4千6百万円
等を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は
7千8百万円(前連結会計年度は親会社株主に帰属する
当期純損失9千9百万円)となりました。



Q 事業セグメント別の業績をお聞かせください。

■ 機器装置事業

機器装置事業につきましては、アフターコロナを見据えた設備投資意欲の高まりにより、ボイラー、ヒーター等の熱源機器やエアハンドリングユニット、ヒートポンプ式外気処理機等の空調機器の売上が好調に推移しました。また、熱処理炉等のサーモデバイス機器は一部案件の失注があったものの売上は堅調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は67億4千2百万円(前連結会計年度比13.5%増)、受注高は77億4千8百万円(同比17.0%増)となりました。

■ 素形材加工事業

素形材加工事業につきましては、精密鋳造品は主要顧客の在庫調整が進んだことにより需要が増加し、売上は好調に推移しました。景観製品は材料費高騰に伴う発注遅れ等が影響し、売上は低調に推移しました。

セグメント別の売上高・受注高

(単位：百万円)

	売上高	受注高
■ 機器装置事業	6,742	7,748
■ 素形材加工事業	1,925	1,936
■ サービスエンジニアリング事業	3,373	3,453
合計	12,042	13,138

その結果、当事業の売上高は19億2千5百万円(前連結会計年度比2.9%減)、受注高は19億3千6百万円(同比12.0%減)となりました。

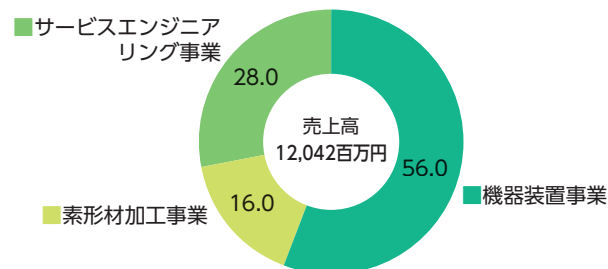
■ サービスエンジニアリング事業

サービスエンジニアリング事業につきましては、空調設備・給排水衛生設備工事が堅調に推移しました。また、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたことに伴い、有料サービスも好調に推移しました。

その結果、当事業の売上高は33億7千3百万円(前連結会計年度比20.1%増)、受注高は34億5千3百万円(同比12.6%増)となりました。

セグメント別の売上高構成比

(単位：%)



**Q 今後の見通しをお聞かせください。**

今後の見通しにつきましては、わが国経済は新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い社会経済活動の正常化が一段と進むことが期待される一方で、物価の上昇や原材料価格の高止まり及び欧米を中心とする海外経済の減速等により景気が下振れするリスクもあり、依然として先行き不透明な状況が続くものと予想されます。

Q 今年度の取り組みをお聞かせください。

当社グループは、2023年度から2025年度までの3ヶ年における新中期経営計画「人財戦略・事業戦略を一貫させた強い昭和鉄工で持続的社会への一翼を担おう！」を策定いたしました。

2023年度は、連結売上高127億円、連結売上高営業利益率2.1%の達成を目指し、重点課題である「事業運営と管理運営の抜本的見直し(データドリブン経営)」及び「組織風土改革と自律人財の育成(人財第一主義経営)」並びに「ライフサイクル型事業の推進」及び「サステナブル新商品の創出」に取り組んでまいります。

Q 株主還元の考え方についてお聞かせください。

当社は、株主の皆様への安定的な配当の継続を最重要課題と位置づけており、加えて企業業績のほか、今後予想される競争激化に耐えうるための経営効率化、新製品開発に備えるための内部留保の充実を勘案し、配当を行うことを基本方針としております。

第101期の期末配当につきましては、当期の業績、今後の経営環境の見通し等を勘案したうえで、1株につき50円とさせていただきます。

Q 最後に株主の皆様メッセージをお願いします。

これから『誠実を造り、誠実を売り、誠実をサービスする』の社是のもと、全社共通の価値観として再構築したミッション・ビジョン・バリューを実践し、全力をつくして業績の向上と安定した収益基盤の確立に邁進していく所存であります。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2023年度から2025年度までの3ヶ年における新中期経営計画を策定しました！

■前中期経営計画の振り返りと反省



当社グループでは、2020年度から2022年度までの3年間、中期経営計画「全社横断の改革を実行し“140”へ向かおう！」を掲げ、売上・損益構造や財務体質の改善をはじめ、全体最適化と人材育成を加速させる体制づくり、実践的な生産性改革の推進、全社一丸での事業収益の拡大に取り組んでまいりました。

しかしながら、長引くコロナ禍や原材料費高騰等のイレギュラーな押し下げ要因が影響し、連結数値目標（2022年度に連結売上高140億円以上、連結売上高営業利益率5%以上の達成）は未達となりました。

新たな3年間にに向けて

前中期経営計画の振り返りと反省を踏まえ、改めて、当社の社是である「誠実を造り、誠実を売り、誠実をサービスする」を根幹に全社共通の価値観としてミッション・ビジョン・バリューを再構築し、当社グループの進むべき方向性の議論を重ね、新たに中期的に目指す姿を見定めました。

人財戦略・事業戦略を一貫させた

2023-2025 中期経営計画スローガン
SHOWA

「強い昭和鉄工」で「持続的社会」への一翼を担おう！

リバイバル
Showa

サバイバル
Showa



■新中期経営計画の目指すゴール

これからの3年間で当社グループが目指すゴールは、以下の2つです。

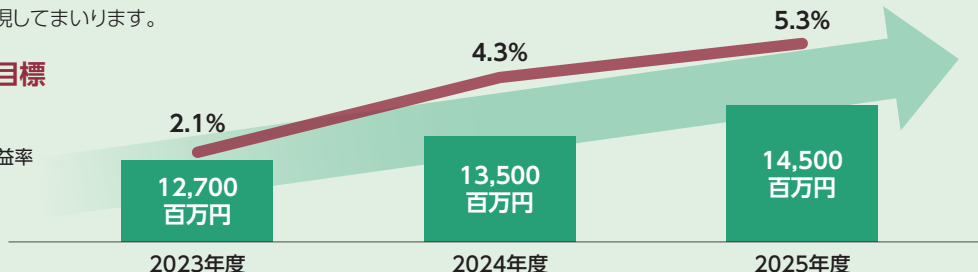
【リバイバルSHOWA】 人財戦略と事業戦略が一貫した“強い昭和鉄工”の実現

【サバイバルSHOWA】 強い昭和鉄工が一翼を担う“持続的社会”の実現

当社グループが新たな成長トレンドに向かうべく、これまで当社の長い歴史を支えてきたモノづくりへの想いと熟技術の探求へ原点回帰する一方で、直面する社会や環境の様々な課題に取り組み、持続的に成長する共存共栄の世界実現の一翼を担えるよう、次の連結数値目標と重点課題を実現してまいります。

●連結数値目標

売上高
営業利益率





●重点課題

【リバイバルSHOWA】 人財戦略と事業戦略が一貫した“強い昭和鉄工”の実現

①事業運営と管理運営の抜本的見直し(データドリブン経営)

DX推進部	財務経理部	人事部
データ分析基盤の整備、データ活用文化の醸成と事業部門の能動的な顧客獲得・提案に寄与するデジタル施策の推進	原価・売価のチェック機能強化と事業部門の業務効率化サポート	人財データベースの構築と事業戦略に連動した人財配置・競争優位の支援
資材部	品質保証部	内部監査室
タイムリーな価格情報分析、在庫・外注管理、部品の共通化等による収益率の改善	技術・製造・営業・サービス部隊との協同によるデータ分析に基づいた生産工程・品質不良コントロールと顧客ニーズに基づいたより良い製品提案	事業施策遂行リスク分析、業務改善提言等による内部統制の拡充

②組織風土改革と自律人財の育成(人財第一主義経営)

組織風土改革	「人」で勝てる現場力向上に向けたミッション・ビジョン・バリューの定着化
自律人財の育成	揺るぎない価値創造とリーダーシップ開発のための階層別教育システムや社内アカデミーの確立

【サバイバルSHOWA】 強い昭和鉄工が一翼を担う“持続的会社”の実現

①ライフサイクル型事業の推進

顧客の持続的成長に不可欠な省エネ製品組込型システムの提案や有効スペース拡充確保に寄与するコンパクト製品の量産化

省エネ診断、省エネチューニング等の顧客満足度向上に向けた継続的なフォロー提案

脱炭素社会に向けて顧客の一番近くで低炭素化を支援するサービスエンジニアの育成強化

安全性・耐候性に加えライフサイクルコスト抑制の施工性に富んだ橋梁用多目的フェンスの拡販

②サステナブル新商品の創出

カーボンニュートラルに向けた新型業務用エコキュートの上市や高効率ヒーターのスタンダード化

CO₂冷媒ヒートポンプ搭載の次世代外気処理機やZEB推進に合わせた省エネ空調機の開発

加熱機器の電化・省エネ化に向け、個々の顧客要望に対応可能な電気ヒーターのカスタム提案

半導体製造装置等の市場向けに自動化・温湿度管理性能向上の熱風循環式加熱炉の開発・提案

機能差別性の高いIRセラミックヒーターのシリーズ展開とユニット製品化

安全性・機能性・デザイン性に富んだ生活道路用柵や車止めの開発

連結貸借対照表

科目	当期 2023年3月31日現在	前期 2022年3月31日現在
(資産の部)		
流動資産	8,639	8,467
現金及び預金	2,351	2,888
受取手形	493	703
売掛金	1,940	1,789
契約資産	534	327
電子記録債権	1,096	982
商品及び製品	157	125
仕掛品	1,485	1,169
原材料及び貯蔵品	534	405
その他	48	77
貸倒引当金	△3	△3
固定資産	6,995	6,328
有形固定資産	3,440	3,515
建物及び構築物	1,006	1,031
機械装置及び運搬具	573	606
土地	1,584	1,584
リース資産	230	247
その他	46	46
無形固定資産	61	87
投資その他の資産	3,493	2,725
投資有価証券	3,449	2,679
繰延税金資産	1	1
その他	61	74
貸倒引当金	△19	△30
① 資産合計	15,635	14,796

① 総資産

前期末に比べ8億3千8百万円増加し、156億3千5百万円となりました。主な要因は、仕掛品3億1千6百万円、投資有価証券7億6千9百万円が増加したものです。

② 負債

前期末に比べ2億2千9百万円増加し、100億円となりました。主な要因は、電子記録債務2億3千6百万円が増加したものです。

③ 純資産

前期末に比べ6億8百万円増加し、56億3千4百万円となりました。主な要因は、その他有価証券評価差額金5億7千8百万円が増加したものです。

科目	当期 2023年3月31日現在	前期 2022年3月31日現在
(負債の部)		
流動負債	7,202	6,887
支払手形及び買掛金	849	923
電子記録債務	2,193	1,956
短期借入金	3,150	3,050
未払費用	445	437
未払法人税等	51	35
設備関係支払手形	25	54
契約負債	20	46
リース債務	45	44
その他	421	338
固定負債	2,798	2,883
長期借入金	325	525
退職給付に係る負債	1,518	1,573
繰延税金負債	471	262
リース債務	170	210
その他	312	312
② 負債合計	10,000	9,770
(純資産の部)		
株主資本	4,365	4,327
資本金	1,641	1,641
資本剰余金	1,226	1,226
利益剰余金	1,628	1,591
自己株式	△130	△130
その他の包括利益累計額	1,268	697
その他有価証券評価差額金	1,424	846
退職給付に係る調整累計額	△155	△148
③ 純資産合計	5,634	5,025
負債及び純資産合計	15,635	14,796

連結損益計算書

科目	当期 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	前期 自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日
④ 売上高	12,042	10,735
売上原価	9,571	8,494
売上総利益	2,470	2,240
販売費及び一般管理費	2,533	2,428
⑤ 営業損失	△63	△187
営業外収益	187	159
営業外費用	67	126
⑤ 経常損益	56	△154
特別利益	51	220
特別損失	—	55
税金等調整前当期純利益	108	10
法人税、住民税及び事業税	35	52
法人税等調整額	△6	57
当期純損益	78	△99
⑤ 親会社株主に帰属する当期純損益	78	△99

④ 売上高

創業140周年を迎える2023年に向けた中期経営計画「全社横断の改革を実行し“140”へ向かおう」の最終年度として、営業・製造・サービス活動のさらなる生産性改善による収益基盤の確立と構造改革を進め、重点課題である「全体最適化と人材育成を加速させる体制づくり」、「実践的な生産性改革の推進」及び「全社一丸での事業収益の拡大」に取り組んでまいりました。その結果、当期における当社グループの売上高は120億4千2百万円(前年同期比12.2%増)となりました。

⑤ 営業損失・経常損益・親会社株主に帰属する当期純損益

設備投資の需要増に伴う受注環境の好転により売上高は増加しましたが、原材料・資源価格の上昇や売価への反映遅れ等が影響し、営業損失は6千3百万円(前年同期は営業損失1億8千7百万円)、経常利益は5千6百万円(前年同期は経常損失1億5千4百万円)となりました。また、特別利益に投資有価証券売却益4千6百万円等を計上した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は7千8百万円(前年同期は親会社株主に帰属する当期純損失9千9百万円)となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	当期 自 2022年4月 1日 至 2023年3月31日	前期 自 2021年4月 1日 至 2022年3月31日
⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー	△256	134
投資活動によるキャッシュ・フロー	△19	△18
財務活動によるキャッシュ・フロー	△186	△209
現金及び現金同等物の増減額	△463	△92
現金及び現金同等物の期首残高	2,814	2,907
現金及び現金同等物の期末残高	2,351	2,814

⑥ 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果、支出した資金は2億5千6百万円(前年同期は1億3千4百万円の獲得)となりました。主な要因は、減価償却費2億5千2百万円による増加と、棚卸資産の増加額4億7千6百万円による減少です。

会社概要

商号	昭和鉄工株式会社 Showa Manufacturing Co.,Ltd.
本社所在地	福岡県糟屋郡宇美町大字宇美3351番地8
創業	1883年10月2日
設立	1933年4月30日
資本金	16億4,100万円
従業員数	378名(連結381名)
主な事業内容	ファンコイルユニット・エアハンドリングユニット等の空調機器、業務用エコキュート・ボイラー・ヒーター・バーナー・オユシス等の熱源機器、循環温浴器・空気清浄機等の環境機器、液晶パネル製造用熱処理炉等のサーモデバイス機器、橋梁用防護柵等の景観製品、鋳造品等の製造販売のほか、空調機器、熱源機器等の一部販売・メンテナンス・取替工事及び給排水衛生設備等の設計・監理・施工の請負
主な事業所	
東京支社	神奈川県川崎市川崎区中島二丁目2番7号
工場	宇美工場(福岡県糟屋郡)、古賀工場(福岡県古賀市)、札幌工場(北海道石狩市)
支店	東京(川崎市)、大阪、九州(福岡県糟屋郡)
営業所	札幌(北海道石狩市)、仙台、北関東(さいたま市)、名古屋、広島、下関、南九州(熊本市)、鹿児島
関係会社	昭和トータルサービス株式会社

役員

(2023年6月28日現在)

取締役・監査役

代表取締役	日野 宏昭
取締役	井上 敏
取締役	尾島 孝則
取締役	執行 貴洋
取締役	上野 俊幸
取締役	松尾 利浩
常勤監査役	伊達 正治
監査役	吉田 泰彦
監査役	本田 隆茂

執行役員

社長CEO	日野 宏昭
常務執行役員	井上 敏
上級執行役員	尾島 孝則
上級執行役員	執行 貴洋
執行役員	名和 正之
執行役員	森 克郎

株式の状況

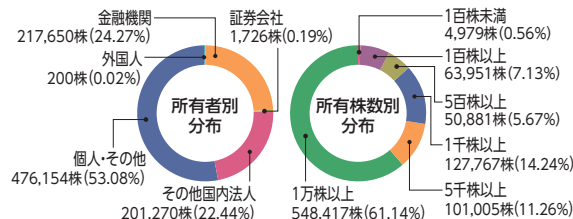
発行可能株式総数	2,400,000株
発行済株式の総数	897,000株
株主数	781名

大株主

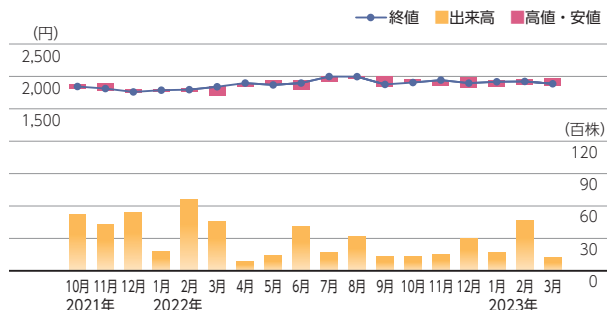
株主名	持株数(株)	持株比率(%)
株式会社福岡銀行	38,650	4.69
株式会社西日本シティ銀行	38,500	4.67
株式会社北九州銀行	35,750	4.33
西部ガスホールディングス株式会社	34,500	4.18
西日本鉄道株式会社	29,100	3.53
飯田久泰	26,700	3.24
飯田卓子	25,561	3.10
飯田吉宣	24,088	2.92
渡辺秀一郎	20,000	2.42
稲田好美	19,813	2.40

(注) 持株比率は、自己株式(73,018株)を控除して計算しております。

株式分布状況



株価の推移



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会の基準日 毎年3月31日 剰余金の配当の基準日 毎年3月31日 中間配当の基準日 毎年9月30日 その他必要あるときは、あらかじめ公告して定めます。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
特別口座の 口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 (お問合せ先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031 (フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。
公告方法	電子公告によります。 https://www.showa.co.jp/ ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
単元株式数	100株

株主様へのご案内

住所変更、単元未満株式の買取・買増
等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別
口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払い配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

ホームページのご案内

<https://www.showa.co.jp/>

●トップ画面



当社ホームページでは、IR情報をはじめ豊富なインフォメーションを掲載しています。どうぞご利用ください。

●IR情報トップ画面



〒811-2101 福岡県糟屋郡宇美町大字宇美3351番地8
TEL 092-933-6390 (代表)



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。
森林に配慮して適切に管理された森林認証紙を使用し、環境に優しい植物油インキで印刷しています。